

チー ム 身 延



身延町立身延小学校
Tel 0556-62-0066
Fax 0556-62-0368

学校の理念：「すべての子どもに笑顔があふれる学校を・・・」

木枯らしが吹いた翌日は、うって変わっておだやかな陽気に包まれることが多いといわれています。まるで春が来たのかと勘違いするような、のどかな天気「小春日和」が、ここ数日間続いています。「小春」は、旧暦10月の異称で、新暦でいうと11月から12月上旬にかけて使われるそうです。

来たる寒さに身構える中、訪れる不意の陽気にホッとするのは誰もが一緒ではないでしょうか。子どもたちにとっても、もちろん大人である私たちにとっても、家庭や地域、学校が温もりの場所でありたいものです。



10月、身延小から見た二重の虹！幸福への架け橋！

～新身延中学校説明会～

11月11日(木)に、4年生から6年生を対象に、新身延中学校の説明会が身延小体育館で行われました。新校舎は、下山小学校のグラウンドの南側に建てられます。

令和6年の2月には完成予定です。つまり、今の6年生が中学3年生の時に、5年生が中学2年生の時に、そして、4年生が中学1年生の時から新校舎の門をくぐることになります。



6年：新校舎の平面図や立面図の説明を受けている様子！

「やさしい木の香りと温もりに包まれた学び舎」にするために5つのテーマが設定されました。①**皆が誇りがもてる身延にしかない特別な学び舎**②**自ら進んで学ぶ喜びを感じる学び舎**③**豊かな心を育む学び舎**④**たくましく成長できる学び舎**⑤**子どもたちが自分の子どもも学ばせたい学び舎** 子どもたちは、夢と希望を膨らませながら、設計事務所の方々のお話、真剣な眼差しで聞き入っていました。



4年：新校舎の3D画像を真剣な面持ちで見入る様子



5年：立体模型や使用される木材等の見学をしている様子

4年生の自転車教室から想うこと～

10月初旬、4年生が体育館で自転車教室を行いました。南部警察署の方や交通指導員の宝示さん、スクールサポーターの小泉さんから指導を受けました。自分の命はもとより、相手の命も守ること等、大切な話をいただきました。その後、金曜集会で全校児童に話す機会がありました。以下がその内容です。

平成20年に神戸で実際にあった小学生の話をして。「今日のご飯は何か」「今日は何のテレビを見ようかな」、途中風を感じながら気持ちよく坂を下っていたそのときです。目の前に女の人が見え、「あっ」気づいた時にはすでに遅し、自転車は散歩をしていた女の人にぶつかってしまっ

たのです。女の人は自転車に突き飛ばされて、頭を強く打ってしまいました。女の人は救急車で運ばれ、かろうじて命は大丈夫だったのですが、頭を強く打ったせいで残念ながら意識は戻らず、今も寝たきりです。この事故で、裁判を行いました。裁判長は女性を突き飛ばした少年の家族にお金を支払うように命じました。少年は5年生ですからお金を払うことができません。だから、少年の家族に支払うように命じました。9500万円です。1億円に近い額です。この話を紹介したのは、このような事故は誰にでも起こる可能性があるからです。児童のみなさんが払えなくても、おうちの人は払わなければならないのです。自転車はとっても便利な乗り物です。でも、使い方を間違えると危険な乗り物に変身します。自転車に乗るときは必ずマナーを守ってください。というお話です。



常に安全確認！



4年：自転車教室の様子

自転車を運転する人はドライバーです。だから子どもたちも立派なドライバーです。山梨県では、自転車事故の割合が増え、一昨年からは自転車に乗る人は、保険に入ることが義務化されました。安全運転に心がけるよう家でも御指導ください。自転車は自動車やバイクの仲間です。自分の身を守るためにヘルメットも大切です。

身延小見聞録

6年生は、毎朝「あいさつ運動」をしています。あいさつ運動の当番の児童は、他の児童が登校する前の少しの時間を見つけ、職員と一緒に落ち葉掃きを率先してやっています。おかげで玄関周りがきれいになります。子どもたちの「きれいな心」に私たちの心もポカポカしてきます。



落ち葉を掃いてくださっているのは学校関係者だけではありません。風で学校外に舞ってしまった無数の落ち葉を、毎朝ご近所の方が、掃いてくださいます。駆け寄ってお礼を言わせていただきました。すると、「春になるときれいな桜の花を見せてもらっているし、健康のためですよ。」と笑いながら応えてくれました。日々、地域の方々の美しい心に出会わせていただき、改めて、地域の方々に支えられていることを、しみじみと感じています。ありがとうございます。

コロナ禍での自分自身への対応！

江戸時代の儒者・佐藤一斎の著書「言志四録」の中の言葉に「薫風（春風）をもって人と接し、秋霜をもって自らを慎む」という、私の好きな言葉があります。「人と接するときは、春風のように穏やかで和やかな心、伸びやかで寛大な心で接し、自分に対するときは秋の霜のように鋭く烈しく厳しい心で律していかなければならない。」という意味です。つまり、「人に優しく、自分に厳しく」です。

数日間の研修の機会がありました。コロナ禍にある現在、「人に優しく、自分にも優しくすることが大切」という講師の話された言葉が印象的でした。間違っても、「人に厳しく自分に甘く」には、なりたくないものです。難局に立ち向かうためには、自己肯定感をもち、ピンチをチャンスに変える心構えが必要になるのでしょうか。

